

—大阪水上バス株式会社—

水素燃料電池船まほろば就航・大阪・関西万博の期間中、会場までアクセス

4 月 13 日から 2025 年国際博覧会（大阪・関西万博）が開催される。この万博会場への海上アクセスとして大阪市内の中之島から夢洲会場まで、水素燃料電池船「まほろば」が就航する。本船は脱炭素化社会に向けた燃料船であるが、その取り扱いについては、国が定める安全基準に沿った万全の安全対策を行い、万博の開催期間中である 10 月 13 日まで運航される。

水素が変える未来社会へ

水素燃料電池船「まほろば」は、2025 大阪・関西万博の開幕に向けて、岩谷産業をはじめとした関係事業者によるプロジェクトの一環として誕生し、水素燃料電池は、水素と空気中の酸素のみを利用した動力で、騒音や振動が少なく、既存の旅客船よりも快適な乗り心地に加え、二酸化炭素の排出がゼロであるため脱炭素化社会（カーボンニュートラル）に向けて期待されている。

しかしながら、水素は無色・無臭であり、燃料船としての事例はほとんどなく、船舶の安全性や船員の安全対策を十分に確保する必要があるため、安全な運航に向けた協議を実施した。

安全に向けた就航について、国が定める「水素燃料電池船の安全ガイドライン」の基準に基づいた船舶設計であり、乗組員は水素の特性に関する知識研修や取り扱い訓練などを受けて安全対策を講じている。さらには、管轄官庁である近畿運輸局からも安全運航について適切な対応・指導を実施していくことを確認している。

なお、船名「まほろば」の由来は、古事記における倭建命（やまとたけるのみこと）が故郷を偲んで詠んだ和歌に使われた言葉で「素晴らしく、住みやすい場所」という意味がある。世界の未来が自然との共生により、真の「まほろば」になってほしいという思いと、クリーンな水素で動く船がその一翼を担うことを願い命名された。

「海員日より」